Coleman

取扱説明書

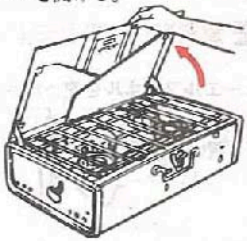
THE POWERHOUSE™ TWO BURNER

MODEL 413H

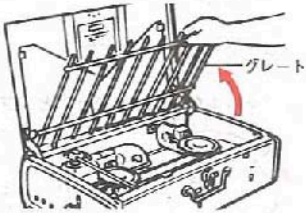
The Two Burner.

1 点火の準備

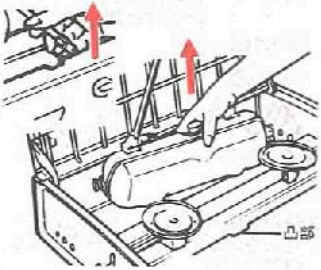
①ふたを開ける。



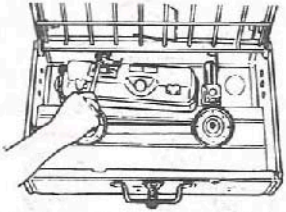
②グレートを持ち上げる。



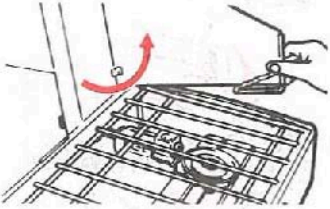
③ジェネレーター先端を、本体凹部を通して外に出し、ジェネレーター先端を上にした角度で燃料タンクを取りだす。



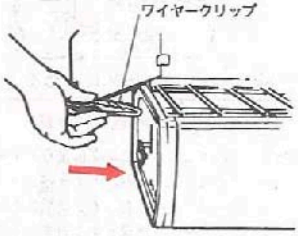
④無理やり取り出すと、バルブホイールを破損することがあるので注意する。



⑤グレートをおろし、防風板を左右に広げる。



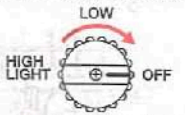
⑥ワイヤークリップを、本体の穴にセットする。



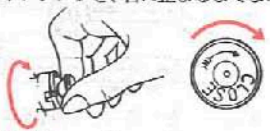
2燃料を入れる

⚠ 必ず、アウトドア（屋外）の火気のない所で行ってください。

①燃料バルブを右に止まるまでまわす。

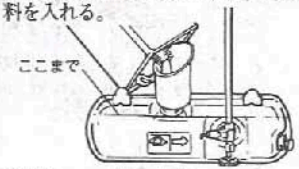


②ポンプノブを、右に止まるまでまわす。



③燃料キャップをはずす。

④燃料タンクを水平に置いて、注入口からあふれない位（8分目程度）に燃料を入れる。



⑤燃料キャップを、固めにしめる。

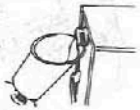
⚠ 燃料の入れ過ぎに注意

燃料を入れ過ぎるとポンピングにより加圧するスペースがなくなり、液状のままのガソリンがバーナー部に放出され、不完全燃焼の原因になります。また、燃料が少な過ぎると炎が途切れたり、不安定な燃焼になります。

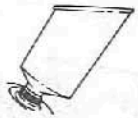
燃料満タンの目安

フューエルファネルを使った場合

①燃料タンクを水平に置いて燃料を入れる。



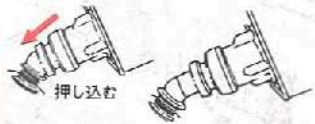
②フューエルファネルから、タンク内に入らなくなったら、注入をストップ。



③ファネルを少し持ちあげると、ファネル内に残った燃料はタンク内に入り、ちょうど満タンの量になる。

ガソリンフィラーを使った場合

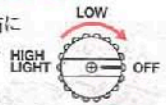
①燃料タンクを水平に置き、ガソリンフィラーは正確に押し込み燃料を入れる。



②缶から燃料が入らなくなったら、注入をストップ。ちょうど満タンの量になる。

3ポンピング

①燃料バルブを右に止まるまでまわす。

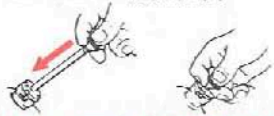


②ポンプノブを、左に2回転させる。

⚠ 堅くて回らない時はプライヤー等で左に回してください（特に新品購入時は堅い場合があります。）

③親指でポンプノブの穴を押さえ、人差し指と中指を添える。

④手前に引いて、奥まで押しこむ正確なストロークを繰り返す。



⚠ ポンピング時に引っかかり等を感じる場合はリュブリカントを注入してください。

⑤100～150回以上ポンピングし、固くなって指の力で入らなくなったら、ノブを押しこんで右に止まるまでまわす。

ポンピング操作上の注意

⚠ ポンプカップの乾燥

ポンプカップが乾燥していると、ポンピングしてもひっかかる感じや軽すぎる感じで、空気が入らない。ポンプキャップの「OIL」と表示のある穴から、リュブリカントを2～3滴注入する。

リュブリカント
ポンプカップ専用
特殊オイル

⚠ 乾燥した状態で、無理にポンピングすると、ポンプカップがめくれるなど、破損の原因となる。

⚠ ポンピングは正確に

燃料タンクに垂直になるように正しくストロークする。力を入れ過ぎて、間違った方向に押すと、エアーステムを曲げるなど、の原因となる。

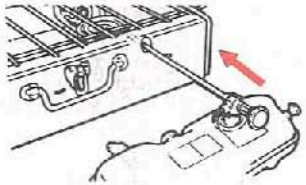
⚠ ポンピング時は、引き過ぎに注意

（特にイージーポンピングご使用の際は注意してください。）

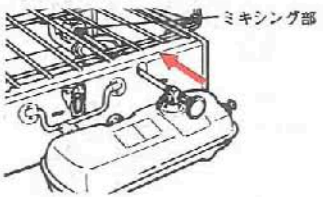
ポンピングをする際、手前に引く時は8分目位の所までとし、最後まで引っ張らないこと。引っ張り過ぎるとプッシュオンナットが外れ、ポンププランジャーが外れる場合がある。外れた場合は P.15 の組み立て方を参照してください。

4燃料タンクのセット

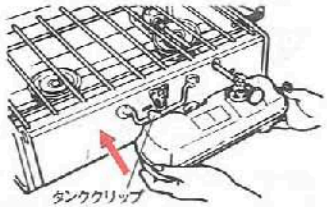
①ジェネレーターの先端を、本体前部の穴に通す。

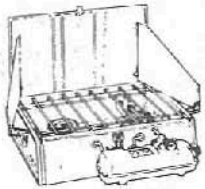


②ジェネレーター先端を、ミキシング部の穴に入れる。



③タンククリップを本体前部の穴に入れてセット完了。





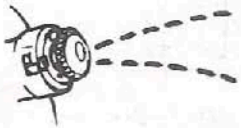
⚠ ジェネレーターのスチール部分にさびが浮いている場合がありますが、特に使用上は問題ありません。

ワンポイントメンテナンス

チェックバルブ機能の点検

⚠ ポンピング操作直後に点検する

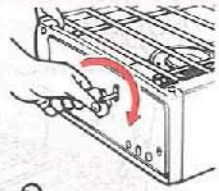
ポンプノブ先端の穴から燃料が吹きでる場合は、チェックバルブ機能不良。空気圧を抜いて修理に出す。



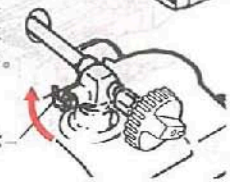
チェックバルブ交換は、専用工具が必要。お買い求めの販売店にご依頼ください。

5メインバーナーの点火

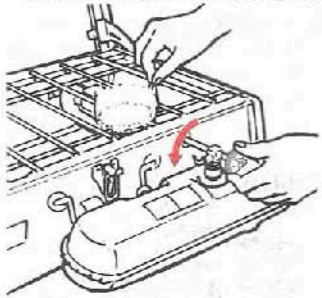
①サブバーナー燃料バルブを、右に止まるまでまわす。



②点火レバーを上向きにセットする。



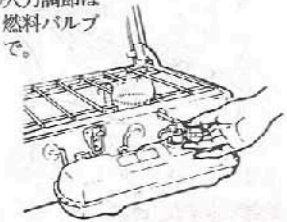
③柄の長いライターなどの火をメインバーナーに近づけ、燃料バルブを左に1~2回転させると点火する。



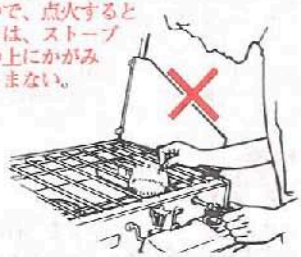
④点火直後、更に充分ポンピングする。

⑤点火直後の赤い炎から、安定した炎に変わったら、点火レバーを下向きにする。

⑥火力調節は燃料バルブで。



⚠ 点火時の注意　炎は上にあがるので、点火するときは、ストーブの上にかがみこまない。



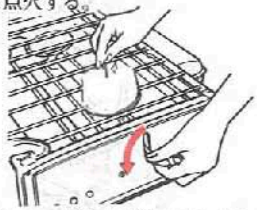
⚠ 必ず火を入れてから燃料つまみを開いてください。先に燃料つまみを開くと不完全燃焼の原因になります。

⚠ バーナー以外から炎が出る場合は、燃料の出すぎか燃料漏れが原因。燃料バルブを、右に止まるまでまわし、消火後、再度取扱説明書をよく読んで、正しい手順で点火操作を行う。

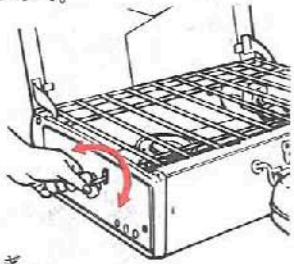
6サブバーナーの点火

⚠ 単独使用はできないのでメインバーナーの火力安定後に点火。

①栓の長いライターなどの火をサブバーナーに近づけ、サブバーナー燃料バルブを左に2回転以上回すと点火する。



③火力調節は、サブバーナー燃料バルブで。



②バーナーボウルが冷えていると、炎がとぎれることがあるが、熱を帯びると安定する。

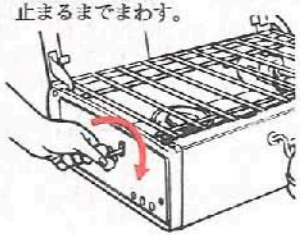
ワンポイントメンテナンス

⚠ 燃料バルブのつけ根（バルブステム一式）より、燃料が漏れる場合は、ナット部を増し締めしてください。それでも止まらない場合はバルブステム一式を交換してください。

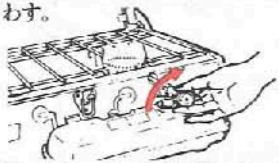
⚠ ジェネレーター先端ミキシング部より炎が漏れる場合は、ジェネレーター先端のナットを増し締めしてください。それでも止まらない場合は、ジェネレーターを交換してください。

7消火

①サブバーナー燃料バルブを、右に止まるまでまわす。



②燃料バルブを、右に止まるまでまわす。



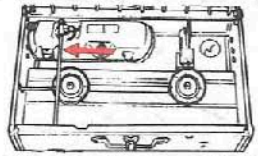
③ジェネレーター内部に残っているガスがなくなるまで3～5分位燃えるが、しばらくすると消える。

8収納・保管

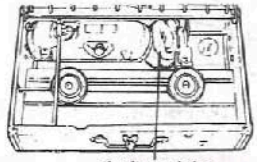
⚠ ストーブ本体が完全に冷えてから行う。

①本体左奥に燃料タンクを入れ、ジェネレーター先端を本体の凹部を通し中に入れる。

②燃料タンクを左に寄せ、ジェネレーターがサブバーナーの上にくるようにセットする。



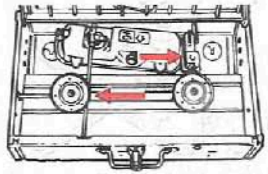
③燃料タンクとミキシング部の間にできる空間に、ぼろ布などの詰め物を入れて、燃料タンクが中で動かないようにする。



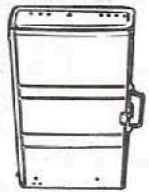
詰め物で固定する

⚠ 器具を収納・保管・運搬する場合は、火気の近く、湿度が高い、高温な車内等温度が40度以上になる場所には収納・保管しないでください。

④詰め物をしないで運搬すると、サブバーナーの下にジェネレーター先端が引っかかり、ジェネレーターを曲げたり、ミキシング部が変形することがある。



⑤本体を縦に収納する場合、サブバーナー燃料バルブが下にくるように置く。



⑥車のトランクなどで運ぶ時や、使用後に保管する場合、短期間であれば燃料を抜き取る必要はありませんが、空気圧は抜いてください。空気圧は燃料キャップを徐々に緩めると抜けます。

⑦シーズンオフ等で長期間（半年以上）保管する場合は、燃料を完全に使いきって、タンク内を空にしてください。完全に燃料を抜く場合は別売りの「残ガス抜き取りポンプ」を使うと便利です。

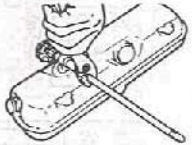
⑧幼児、子供の手の届く所に保管しない。

9 メンテナンス

ジェネレーター交換の手順

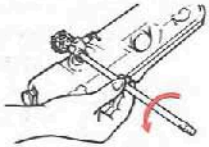
⚠ 点火しにくい。完全燃焼しない。いつもより火力が弱い。ミキシング部から炎が出る。このような場合は、ジェネレーターを交換してください。

①プライヤーで、ジェネレーターチューブをはさむ。



②左に1/4回転させる。

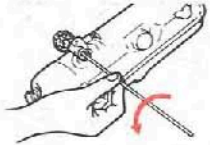
③手でまわしてゆるめる。



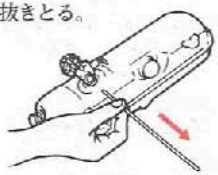
④抜きとる。

⑤ニードルをプライヤーではさみ、左に1/4回転させる。

⑥手でまわしてゆるめる。



⑦抜きとる。



⑧7～1の手順で取り付けて交換完了。

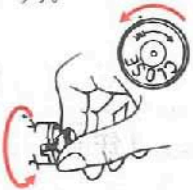
⚠ 交換後点火操作を行い、燃料漏れがないか確認する。

ジェネレーターは消耗品です。常時、予備のジェネレーターをご用意ください。

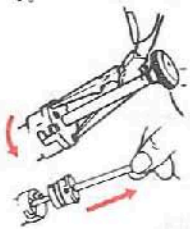
ポンプカップ交換の手順

⚠ ポンプカップが破損、損傷または外れたときは、ポンピングしても空気が入りません。ポンプカップを交換するか再度組立て直してください。

①ポンプノブを左に10回転以上回し、チェックバルブからエアーステムをはずす。



②ラジオペンチなどで、ポンプキャップを左にまわし、ポンプノブを抜きとる。



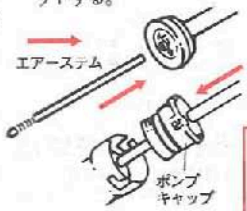
③ポンプカップを固定している、プッシュオンナットをはずし、損傷したポンプカップを取りのぞく。

ポンププランジャーの組立て方法

⚠ ポンプカップが外れてしまった場合は、ポンプキャップを外すと中にエアーステム、白いプラスチック板、ポンプカップ、プッシュオンナットがシリンダー内に残っているはずですので、それを取り出す。エアーステムは左に10回転以上回すと取れます。

ポンプキャップ、白いプラスチック板（向きに注意）、ポンプカップ、プッシュオンナットの順で組み立て、固定する。

④ポンプカップにリュブリカント（専用特殊オイル）をつけ、エアーステムをポンププランジャーの中に入れ、ポンプノブをセットする。



⑤ポンプキャップを固定する。

⑥ポンプノブを右に止まるまでまわして、交換完了。

⚠ ②の段階で、エアーステムに曲がりがないか確認し、変形していたら交換する。

⚠ エアーステムが曲がっていると、ポンピング操作が固くなり、チェックバルブ破損の原因になる。

常時、ポンプリペアキットの携行をお勧めします。